

# Our Team

## 田村 直之 たむら・なおゆき 専門分野:天文学

IPMU 助教

私は、銀河がどのように形成し進化してきたかを理解すべく観測データをもとに研究を進めると同時に、より良質のデータをより効率よく取得するために必要な新しい観測装置の開発にも従事しています。これら2つの研究領域はいわば車の両輪で、天体観測を通して宇宙を理解するためにどちらも不可欠だと思うからです。

私が観測装置開発に取り組むようになったのは大学院生時代（京都大学）です。早期型銀河の形成や進化の歴史を知るための1つの手がかりとして、色や吸収線の強さの銀河内部で変化する様子を調査、研究する傍ら、遠方銀河の分光観測にも強い関心を持ち、多数の天体を効率良く分光観測できる多天体分光器“FMOS”の開発チームに加わりました。博士号を取得し京都を離れ、イギリスのダーラム大学や、国立天文台ハワイ観測所へポスドク研究員として赴任後も、早期型銀河に付随する球状星団種族や遠方銀河の観測研究を続けながら、FMOS の開発、装置立ち上げの中



で中心的な役割を果たしてきました。

FMOS が科学運用を開始し様々なサーベイ観測プログラムが走り出した今、私はさらに強力なファイバー多天体分光器を新たに開発するためのプロジェクトへの参画を決めました。SuMIRe プロジェクトです。私は、IPMU に本拠を置くPFS 開発プロジェクトオフィスの一員として、FMOS の開発を通して培った経験を生かし、装置の開発やマネジメントに従事しています。また、これとは独立に、面分光装置の開発にも関心を持っており、必要な技術開発や既存技術の応用へ向けた取り組みにも積極的に関与していきたいと思っています。